日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043（222）7207番
97.2.10 No. 4544

JR総連はファシスト労働運動だ その2

奴隷根性 丸出しの「時代認識論」

「JR総連はファシスト労働組合だ！」このことは、急速に、心ある労働者の共通認識となってきている。

今や、闘う労働者の合言葉は、「JR総連・革マルのファシスト労働運動を打倒し国鉄決戦に勝利しよう！」ーこれだ！

この闘いを、もっと、もっと広めよう。今号では、JR総連・革マルの「時代認識論」について断罪する。

第三の変革期

「時代認識」の明確化について。まず、政府・支配階級の側はどうなのかー

橋本首相は、年頭会見において、「明治維新、戦後改革に続く第三の変革期を迎えている。国家全体にわたる大改革を一気に実行することが必要だ」と述べた。

九七年日経連「労問研報告」は、「現在はかつての世界大恐慌以来最大の雇用の危機にある・・・世界ですでに十億人が失業し、十二億人が絶対的貧困のなかで暮らしている」「改革を進める過程において重要なことは、政・労・使が未経験の危機意識を共有し、労使の安定帯を維持することと、人材の育成・教育にあたる」としている。

こうした認識の下に、「春闘ベアゼロ」決定に始まり、行革・規制緩和など、結局のところ一切の犠牲を労働者に転化せんとしている。が現在の状況だ。

二つの松崎講演

こうした中で、JR総連・革マルは、国鉄分割・民営化の時の大裏切りをはるかにこえるスケールで、政府・支配階級の攻撃のお先棒を担いでいるのだ。

それを、もっとも象徴しているのが、九五年六月二日の東北地域本社（仙台）と、同じく七月二五日に水戸支社でおこなわれた、「二つの松崎講演」だ。

要約すれば、①ワークシェアリング政策推進、②軍需生産・武器輸出、ナチス経済政策推進を強烈に打ち出したものである。

「例えば、自分の労働時間を半分にしてくれという要求をする。その代わり賃金は半分でいい」

「半分首切ると言われて、ストライキで解決できるか・・ストライキよりは理性である。ストライキよりはワークシェアリングについて皆で労働を分担しようと」

「一番利益を上げるのは戦争だ。戦争は修理する必要がない。ロケット一発撃って、弾を回収するか。当然しない。一発何千万しようと撃ちっぱなしだ。したがって、日本の産業も軍需生産に移る。これは歴史の必然だ・・・

もっと失業者が登場していく時に、ナチズムが登場していく。ファシズムが登場していく。好むと好まざるとにかかわらず、登場することになる」

支配階級、あの小澤ですら言えないことを、革マル・松崎がストレートに代弁するかのようだ。

絶望の組織化

ここには、労働者として、「首切りや賃下げ」「（軍需生産などの）戦争政策」「ファシズム」と闘うという発想がひとかけらもない。

JR総連・革マルは、国鉄分割・民営化攻撃の前に、当時の動労革マルが真っ先に震えあがり、その最悪の先兵になったように、いままた、戦争と大失業の攻撃の前に、その道を掃き清める、ファシスト突撃隊としての本性をますます顕にして、支配階級に自らを売り込もうとしているのだ。

彼らの時代認識とは、「労働者は闘っても勝てない」「どうせなら、資本の手先となって生き延びる」という、ものすごく卑屈で、奴隷根性むきだしなものであり、もっと許せないことは、「JR総連」という「労組」を使って、労働者を絶望にむかって組織化しようとしていることだ。

希望や未来は闘いの中に

こうした、JR総連・革マルの時代認識の結論が、「国労解体方針」だ。労働者を苦しめている、当局や権力に一度も向けたことのない刃を国労にむけているのだ。「清算事業団闘争・解雇撤回闘争などやめろ」「闘う旗をおろして、降参しろ」と－「当たり前の労働運動」「憲法を守り、戦争を断固拒否する」といって、実際にやっていることの中身はなにか！これを、「ファシスト労働運動」といわずして、なんというのか！

まさに、JR総連・革マルとは、「大失業と戦争の時代」が生み出したファシスト労働運動だ。そして、労働者は革マルの思いとは逆に、資本や当局の攻撃に打勝つ力をもっている、いや、それどころか、歴史を動かす力をもった頼もしい存在だ。

歴史は長い反動期を経て、今や労働運動は国際的に戦後最大の高陽期に突入している。ドイツ、フランス、韓国、イタリア・・・日本では、沖縄から。

希望や未来は、労働者の闘いの中にこそある。ファシスト労組、JR総連・革マル打倒の国鉄決戦に勝利し、闘う労働運動の新しい潮流をつくりだそう！

第三七回定期委員会

とき　二月一九日（水）
一三時から
ところ　千葉県物産センター
五階会議室
傍聴に結集しよう！